

ダム底の輪舞^{ロンド}

緑川
有

「ダム底の輪舞」
ロンド

●登場人物

堀田クニ（立ち退きを拒絶し、この家で一人暮らし・97歳）

中本 桂^{ケイ}（五十年前の時代に迷い込んだ女性、学習塾勤務・24歳）

栗田洋子（学生運動家・22歳）

塩野桜子（洋子の幼なじみで大学も同じ・22歳）

リリー・池田（本名・岩隈貞子 ヒッピーに憧れている・25歳）

森定朋美（草木染めを学んでいる学生・20歳）

高瀬菜々（芸術学部映像学科の学生・21歳）

今泉 蘭（村役場の女子職員・23歳）

藤原時子（かつてこの村に住んでいた・28歳）

●場所…ダム建設のため立ち退きを要請されている村の農家

舞台は暗いまま。風の音、溪谷を流れる水の音に重なって、女性の悲鳴と滑落する音。

（音楽）

横たわっている中本桂^{ケイ}の姿が浮かび上がって舞台が明るくなる。農家の居間。奥の部屋に続く襖も見える。卓袱台と水屋の簡素な家具。壁際の小さなテーブルに黒電話が置かれている。壁にカレンダー（一九七一年／昭和四六年 ビジュアルは当時活躍の女優の写真）が、柱には巾着袋が掛かっている。下手に土間、その横に玄関の引き戸が見える。土間の奥は台所に続いている。土間には「ダム建設反対」「我が村は死なない！」などと書かれた立て看板が見える。

居間の中央、毛布のようなものを掛けられて横になっていた桂、むくつと起き出してまわりを見渡している。そこにこの家の主人クニがモンペに割烹着、鉢巻き姿で、玄関から登場。鉢巻きには

ダム反対の文字が見える。野菜の入った籠と片手に鎌を持っている。桂、鎌をみてギョツとする。

クニ おや、目が覚めたみたいだね。

桂 (クニの声にほっとした様子で) ここ、どこですか? 私、どうしちゃっ

たのかな?

クニ ここはわしの家。^{うち}

桂 私、山道^{やまみち}で足を踏み外して、滑り落ちたところまでは覚えてるんですけど。

クニ あんた、滝壺の横で倒れてたんだよ。声かけたらフラフラしながらついて来て、着いた途端に眠っちまって。よほど疲れておったかね。

桂 そうだったんだ……。

クニ 今、お茶でも。

桂、掛けられていた毛布を畳む。クニ、土間の続きの台所からお茶を運んで来て居間に上がる。二人、卓袱台を挟んでお茶を飲む。

桂 ありがとうございます。お世話になりました。

クニ あんた学生さんかい？

桂 いいえ、こう見えても社会人になってもう三年目です。

クニ ほー。そうかね。

桂 ここから列車の駅まではどのくらいですか。歩いて出られます？

クニ ここは山奥だ。歩いておればいつかは着くが、駅までは遠い。

桂 いわゆるポツンと一軒家ですか。

クニ いやいや、以前はまわりに十数軒ほど家もあって人も大勢いたが、今、

人が住んでおるのは源三さんの家とこの二軒だけになった。

桂 ポツンと二軒家ですか。まいったなー。(カレンダーを確認しながら)

今日は七月三日、土曜日ですよねー。嫌だなー(深いため息)。(まわりを見渡して) 私、倒れてた時、リュック担いでいませんでした？

クニ リュック？

桂 (ポケットを探りながら) リュックもスマホも滑落したときになくしたみたいだし、まったくついてないなー。(部屋の片隅の黒電話を見つけ、近く) 電話借りていいですか？ (つくづくながめながら) こんな電話、ドラマや映画では見たことあるけど……。 (使い方に戸惑っている)

る)

クニ

ああー、それ、どういう訳か、先月から通じない。

桂

そうなんですか。あのー、スマホ、貸してもらえませんか？

クニ

スマホ？

桂

えっ？ あのー、携帯電話……。 (無反応なクニに諦めて) でも、やっぱりいいです。こんな時、連絡して助けてくれる人なんて誰もいないし。 (また、ため息) ああー、帰りたくないなー。

クニ

帰りたくないや、ここにおったらええ。ここにはあんたぐらいの若い女子学生が何人も泊まっておる。遠慮はいらん。

桂

(家を見渡しながら) ここって、農業体験型民宿とか、そういうところですか？

クニ

ノウギョウタイケンガタミンシユク？……。はて……。

そこに洋子、桜子、リリーが、深く帽子をかぶりマスクをした状態で玄関の引き戸を開けて登場。

クニ

あー、おかえり。

洋子、桜子 リリー ただいまー。

リリー （腕を回しながら） いやー、今日も頑張った。

洋子 あの橋を渡ったらすぐクニさんの畑だから、橋の袂の立て看は効果的だよ。

三人とも、それぞれ帽子とマスクを取って居間に向かう。桂に氣付いて再びマスクで顔を隠す。

桂 大丈夫です。私、健康です。

洋子 大丈夫って、あんた誰？

桂 こんにちは。おじゃましています。私、山歩きしてたら崖から滑り落ちてしまって、滝壺の近くで倒れていたところをこちらのおばあちゃんに見つけてもらったんです。

洋子、リリー、桜子、しげしげと桂を眺めておもむろにマスクを外す。三人、偶然微妙な距離感で離れて立っている。

桂 （三人の距離を確認して、自分も離れる） やっぱり、ソーシャルデイス

タンスですね。

桜子 ソーシャル？

リリー デイスタンス？

三人、とまどつて顔を見合わせる。

洋子 社会的距離？ なに言つてんだか。山から落ちて来たあなた、名前は？

桂 中本桂^{ケイ}といひます。失礼ですけど、人に名前聞く時つて、まず自分から名乗るのが礼義ですよ。

洋子 へえー、なるほど、礼義ねー。私、栗田洋子、こちらのおばあちゃんはクニさん、この子は桜子、こちらのお姉様はリリー・池田。安物の踊り子みたいな名前だけど、本名は知らない。

リリー あら、本名なんて何か意味あるの？（桂に）リリーと呼んで。

桂 ああー、ハンドルネームですか。了解しました。

リリー ハンドルネーム？

桜子 初めまして、わたくし、塩野桜子と申します。洋子さんとは中学時代か

らの親友。今も同じ大学。あつ、学部は違いますがね。オーシャン、桜って呼び合う仲です。

桂
オーシャン？

桜子
洋子の洋、海洋の洋だから。オーシャンの闘争に賛同して、というか退屈してたので面白そうだなって、やって来ましたの。あのー、わたくし、リリーさんの本名知ってます。（笑いながら）岩隈貞子って聞きました。だれに？

桜子
役場の今泉さんに。

リリー
どうしてあの今泉が知ってるのよ。

桜子
さあー、何かルートがあるんじゃないですか。

洋子
アハハハ、『あつと驚くタメゴロー』だね。岩隈貞子の方があってるよ。

『あつと驚くタメゴロー』に、リリー、桜子がウケたように可笑しそうに笑うが、桂、ついて行けない。

桂
あのー、タメゴローさんて？

洋子
タメゴローさんって言われても知り合いじゃないし。（また、三人吹き出すように笑い出す）ところで、ケイさんとやら、助っ人に来たんで

しょ。頭数は多い方がいいから、歓迎するよ。

桂

あのー、リリーさんのお名前は承知しましたが、何の助っ人ですか？

そこに朋美が野草を大量に摘んだ籠を抱えて登場。クニは居間の卓袱台の前で座ったまま眠っている。

朋美

ただいまー。今日はヨモギをこんなに収穫したわ。（桂に気付いて）あら、助っ人が増えたのね。クニさん、よかったですね。ああー、また座ったまま眠ってる。

桜子

こちらは、森定朋美さん。

桂

はじめまして。中本桂といいます。（籠の中のヨモギを見て）草餅作りの助っ人ですか、いいですね。子供の頃、田舎の祖母がよく作ってくれて、懐かしいなー。お手伝いします。

洋子

草餅作りの助っ人なんて頼んでないから。

桜子

朋美さんは、美大で織物の勉強しているの。糸から染めて機織^{ハタ}り機で織ってるんですって。

桂

鶴の恩返しみたいな、あの機織りですか？

桜子

ええー、そうみたいよ。朋美さん、草木染めの材料を探してこちらにいらしたの。それで、この村の豊富な草花が水に沈むのを見てられないって、クニさんの闘争に参加されているのよ。

朋美

そう、ここは染料の宝庫よ。このヨモギはね、花穂^{ハナホ}の出る前に刈り取って染めに使うの。鉄媒染でそれはそれは味わい深いオリーブ色に、ミヨウバン媒染だと黄褐色、このゲンノシヨウコは花が咲いてる時に刈り取って、灰汁^{アキ}で黄色がかった茶色、鉄媒染だと黒褐色になるの。それだけじゃなくて、この村には、蓼藍^{タデアイ}の畑があるのよ。畑よ、あなた、畑。もうそろそろ一番刈りする頃よ。蓼藍^{ナマハ}の生葉染めだと美しい水色になるのよ。そんなすばらしい土地を水の底に沈めようなんて、もう悲しくて悲しくて。春にタネを蒔き、肥料や植え替え、そりゃあ手間ひまかけて……。

桂

（止まりそうにない朋美の話を制して）あもう、草木染めの話はそのくらいで。で、闘争って、誰というか、どこと戦ってるんですか？

洋子

権力者との闘争よ。

桂

権力者との闘争って？

リリー

表の幟^{ノボリ}やら立て看やら見てない？

桂

いえ、気付かなかったです。（土間の立て看を見つけて）ああー、これ？

洋子

ここにダム建設の計画があつてね。この村をすっぱりダムの底に沈めようとしているヤカラがいるの。それも、村の人たちの気持ちをじっくり聞きもしないで、一方的に決めて、さあー出て行け、補償はこれで充分だろうって。五年経った今でも三里塚闘争は続いている。あの時の失敗をまったく学習していない。

桂

それでダムに反対してここで？

リリー

立ち退きを拒否しているクニさんを助けるため、一緒に居座つてるという訳。

洋子

ただ静かに田畑を耕して生きていた村人に、賛成派と反対派の分断をつくり、遺恨を残し、キズを負わせて流浪の民に追いやった。

桂

流浪の民ですか？ ちよつとオーバーなようにも……。

洋子

どこが？ 小さき者、弱き者の声を理不尽に踏みつけるヤカラとは徹底的に闘うのみ。こんな年寄り集落、どうにでもなるって、たかをくくつていたやつらを見返してやるのよ。

リリー

賛成の人がいるのも確かなの。て言うか、もうほとんど住民は説得されて、村を去って行つたわ。残つて闘っているのはその蓼藍の畑を作っている源三さんとクニさんの二人だけ。私が初めてこの村に来た二年

前は、平和で穏やかな日々だったのよ。この一年の間に、今日はこの一家、次はあの一家と村を出て行ったわ。

桂 そうなんですか……。皆さん、ずっとここで共同生活ですか？

洋子 まあ、行ったり来たりはあるけどね。リリーなんかはスナックでバイトしてるから、町とここと隔週で通ってるしね。

桂 クニさんには、ここを離れたくない深い事情があるんですね。ご主人との美しい思い出がいっぱいあるんでしょうね。

クニ、突然目を覚ます。

クニ ない！

桂 ないんですか！

リリー ないんじゃないくて、簡単に言えることじゃないからよ、ね、クニさん。

洋子 クニさんはね、息子も娘も孫たちも、身内はみんな先立ってしまって、ここが残った唯一の場所。クニさんには、ずっとこの土地で暮らしていく権利がある。なに人もどこでどう暮らすかは、個人の自由である。我々は、個人の自由と権利のため、ここに居座って徹底的に闘うのだ。

リリー ケイさん、あなたも参加してよ。

桂 急に言われてもどうでしょう？ 今日は、土曜日ですよね。

リリー なーに？ 帰らなくちゃならない事情があるんだ。どこかに勤めてるの？ 土、日だけここに来て泊まり込むというのもありよ。

桂 月曜日までには帰った方がいいかな、と思ったりしたんですが、全然

帰らなくてもいいんです。いえ、むしろ帰りたくないというか……。

朋美 よく分からない人ね。

そこに、エンジン音と車のドアの閉まる音がして、玄関の引き戸を開けて今泉蘭（役場の制服姿）が登場。一礼する。

今泉 こんにちは。皆さまお揃いですね。役場の今泉です。

洋子 見れば分かるから。毎日、飽きもせずご苦労さま。

今泉 （ポケットからメモを取り出し、かなりの早口で）クニさん、調子はいかがですか？ 村長のお言葉をお伝えします。先ほど源三さんは村を去られました。息子さんの説得に応じられて、息子さん家族と第二の人生を歩まれることになりました。したがって、この村に残るの

はクニさんただ一人となってしまう。このあたりで、ご決断はただいとはどうでしょうか。得体のしれない女たちに惑わされているようですが……。

リリー
ちよつと、得体の知れない女はないでしょう。本名までちゃんと調べがついてるくせに。

今泉
ですから、これは村長の言葉ですので。村長の言葉をそのまま正確に皆さんお伝えするよう課長命令ですので。私ごとき下っ端が勝手に言っているわけではありません。村長の言葉、続けます。得体のしれない女たちに惑わされているようですが、クニさん、目を覚ましていただきたい。

クニ
（眠っていたクニ、突然目を覚まして）あの源ちゃんが、とうとう行ってしまったかい。

今泉
はい、源三さんの伝言をお伝えします。「クニさんに挨拶してからと思っただが、クニさんに会わす顔がないから、黙って行く。くれぐれも身体に気をつけて、生きておればまた会える時もあるう」と。
クニ
そうかい、会える時もあるうかいね。

今泉
（急にゆっくりした口調で、感情を抑えるように、時に声を詰まらせて）

息子さんの車に乗り込む源三さんの、何度も何度も振り向いている寂しそうなお姿を見ておりますと、胸が張り裂けるような思いでした。どんなにか名残惜しく悔しい思いであったことかと。

桜子

今泉さん、そんなふうに思っていてくださったの。

洋子

あらー、今泉、もしかして、本音は今泉もダム建設に反対してる？

今泉

いえ、そういうことはありません。私はダム建設がスムーズに進むことを願って、村の発展のため働いている一人です。

リリー

でもさあー、源三さんを見て悲しいと思ったんでしょ。こんなことして、こんなことまでしてダムは必要なのだろうか？ 私たちは大きな間違いを犯しているのかもしれない、なんて。

洋子

（今泉に近づいて）ねえ、この際、こっち側に来ない？

今泉

こっち側って、どっち側ですか？ 私はただ、源三さんには子供の頃からとても良くしてもらったので、寂しいというか、そ、そ、それだけです。ダム建設反対なんて、そ、そんなこと……。

洋子

伝書鳩みたいな、もしかしたらロボットじゃないかしら、みたいな君が、急に人間みたいになって、感動したよ。

リリー

ほんと、やっと目覚めたその人間らしい心を捨てちゃだめよ。

朋美　今、行動しないと後悔するよ。一緒に闘おう。

今泉　いえ、私は一緒に闘ったりは出来ません。そんな、恐ろしい……。

桂　あのー、私、新参者が口を挟むのはどうかと思うのですが。

洋子　じゃあー、やめておけば？

桂　いえ、あえて言わせていただきます。今の言い方アウトだと思います。
今泉さんの人間性を深く傷つける、ほぼパワハラだと思います。

リリー　パワハラって何？

桂　パワーハラスメント知らないって、何ですか？　ですから、立場の優位を笠に着て、弱い立場の者をいじめたり嫌がらせをすることですよ。
今みたいに。

リリー　ええー！　立場が弱いのはこっちでしょ。

桂　今のやり取り見てたら、今泉さんが大蛇に睨まれた子ウサギみたいでしたよ。

今泉　あのう、どなたかは存じませんが、私を庇っていただいて恐縮です。わ、私は、役場のいち職員として、任務を果たすだけです。し、し、失礼いたします。

今泉、逃げるように去る。

洋子

なんだー、子ウサギ逃げちゃったよ。

桂

その言い方、ほんとパワハラおやじみたい。

洋子

パワハラおやじって何よ。

桂

女子を甚だしく下にみている偉そうなおじさん、まわりにいませんか？

リリー

まあー、職場じゃ、女はお茶汲みでもやってろって雰囲気だもんね。

桂

ええーっ、まだそんな会社あるんですか？

リリー

あるわよ。そんなばっか。女性解放はまだまだ途上よ。

桜子

リリーさんはね、ウーマンリブ運動にも詳しいのよ。

桂

ウーマンリブ？（ウーマンリブの意味が分かっていない様子）

リリー

私はただ男社会がつくった規律や道徳から解放されたいだけ。

桂

たしかに男社会の壁って厚いんですよね。でも、明るい未来もありますよね。

SNSという武器を使って例の「ミートゥー」運動みたいに。

洋子

何の運動だか、ちょっと言ってること分かんないんだけど、私を勝手におやじにしないでよ。女性解放運動は、私たちが立ち向かうべき大きな問題の一つだとちゃんと認識してますよ。オリンピックにしても万

博にしても、戦後復興だ経済成長だって、浮かれてたけど、あんなものに誤摩化されちゃだめよ。もっとみんな自分の足元見つめなきゃ。

桂　なにか、話の方向強引に曲げてません？

洋子　全然曲げてない。私の一貫した方向。

桂　東京オリンピック、反対だったんですか？　こんな状況だし、反対意見もあちこちからありましたよね。結局、盗作疑惑やらでさんざん揉めたあげく延期でしょ。それでもって女性蔑視発言で委員会の会長は辞任するし、なんだか、ケチの付きっぱなし。アスリートの人たちも大変ですよね。

リリー　（桜子に）アスリートって、何？

桜子　さあー？（洋子とリリーに）オリンピックって、延期とか、なかったですよね。

洋子　反対とか延期とか聞かなかったなー。私、中学三年生だったけど、浮かれたみたいになっしぐらだったよ。

桂　中学三年生って？……。

リリー　ケイさん、あんた、なんか言うことがズレてない？　やたらカタカナ語多いし変だわ。一人だけ違う空気漂わせて周りから浮いても気付か

桂

ないタイプ、いるのよね。

ええー？ 私、浮いてます？

そこに、玄関の引き戸が開いて、高瀬菜々が八ミリカメラを構えて登場。

菜々

ただいまー。いやー、いいカットが撮れたわ。源三さんが泣きながら息子の車に乗り込むシーン。バックに連なる山々、橋の袂には、この村の運命を物語るように並ぶクレーン車の影。

リリー

監督気取りの高瀬菜々さん、もう少しデリカシーとかないの？ クニさんの気持ちも考えてよ。

菜々

あたしは別に、反対運動しにやってきたわけじゃないから。事実をありのまま、ドキュメント映画を撮ってるだけだから。クニさんや皆さんの闘いぶりは、必ずや私が記録に残し、何年、何十年経っても、このダム建設が何だったのかを問いかけるものとなるでしょう。あつ、ここでクニさんのアップのカット、撮らせてください。クニさん、源三さんがいなくなつて、どんな気持ちですか？

クニ 寂しい……。

菜々 (少し待つが、クニ、それ以上の反応なし) クニさん、もうひと言。

クニ 悲しい……。

菜々 もう少しぐっとくるコメントがほしいなー。まあー、あとで何とかしよう。

桂の存在に気付いてカメラをむける。

菜々 こんにちは。お名前聞かせてもらっていいですか？

桂 中本桂です。

菜々 中本さん、どんな思いでこの闘いに参加されたのですか？

桂 私は偶然ここに辿り着いただけなので。

菜々 そうなんですか。偶然辿り着いただけの中本さんの目には、この女性たちの存在やこの状況はどんなふうに見えますか？

桂 不思議な違和感があります。

リリー 違和感あるのはこっちだって。

菜々 その違和感について、もう少し詳しくお聞きしたいですね。

その時、玄関の引き戸を叩く音。桜子が土間に降りて戸を開けると、藤原時子が、大きな旅行鞆とボストンバックを大事そうに抱えて立っている。

時子

あのー、クニさんはご在宅でしょうか？

桜子

クニさん、お客さま。（時子に向かつて）どうぞ。

時子、まわりを見渡しながら慎重に入ってくる。クニ、立ち上がって時子に近づく。

時子

クニさん、お久しぶりです。藤原時子です。高校生までこの村の、あの川向こうに住んでいた藤原です。その節はお世話になりました。

クニ、時子をながめてしばらく考え込む。

クニ

はい、はい、あのトキちゃん。よー戻って来たね。

時子 覚えてもらっていてよかった。クニさん、ちっともお変わりなく。

クニ こんな時にどうした？ お母さんやお父さんはたっしやかいね。

時子 それが、この村を出て五、六年後だったんですが、最初に父がガンで、たて続けに母もクモ膜下であっけなく……。クニさん、人ってほんとにあっけなく死ぬんですね。

クニ そうかい、トキちゃん、苦労じゃったね。

時子 実はこの村のこと、ニュースで見ました。数人の村人が立ち退きを拒んで住み続けていると。私、ちよつと遠くに旅に出る予定だったんですけど、急に予定がなくなって、空港でほんやりしたら、テレビに懐かしい村の風景が映って。

菜々 ああー、あの時のだ。何かの番組で取り上げるって、どこかのテレビ局が来てたよね。

時子 そうなんです、クニさんが「ここはわしの土地じゃ、ええ気持ちで寝るとこ、叩き起こされてどこぞに行けと言われて、行けるわけがない」って言ってる顔がアップで映って。もう飛んで来てしまいました。私もお手伝いさせてください。

クニ トキちゃん、あんたなんぼになった？

時子 二十八歳です。

クニ 仕事は？ ここに来て大丈夫なんかい？

時子 ええー、ちょうど仕事もやめたばかりです。しばらくここに居させてください。

桜子 仲間が増えるのは大歓迎だわ。ねえ、皆さん？

洋子、朋美、リリー、葉々、口々に「歓迎」と言って招き上げる。

桜子が抱えているボストンバックを受け取ろうとするが、時子は頑なにバックを抱きかかえたまま。

車の音とドアの閉まる音が聞こえて、玄関の引き戸が開いて再び
今泉登場。

今泉 (やはり早口で) こんにちは、何度もおじゃましてすみません。さっそ

くですが、村長からの伝言を申し上げます。

洋子 よく来るなー。今日は半ドンじゃなかったっけ？

桂 ハンドンって何ですか？

今泉 (桂の反応にちらつと桂を見て頭を下げる。洋子に向かって) 土曜日で

洋子
桜子

すから半ドンですが、残業です。（メモを読み上げる）村長からの伝言です。クニさん、ここで、今一度、ダム建設の意義を考えていただきたい。ダムが出来ることで将来助かる命がたくさんあること。その命を守るためにダムの建設が必要なることをご理解いただきたい。そこで、村役場としては、ある企画をお持ちしました。クニさん、喜んでください。村役場は町の素晴らしく豪華な老人ホームを格安で契約することに成功いたしました。なんと温泉付きであります。朝から晩までいつでも温泉入り放題。クニさん、クニさんは明治七年、西暦で言いますと一八七四年生まれでおられます。はっきり申し上げて、残りの人生はもうそんなにかと存じます。この村で一人寂しく暮らすより、余生は温泉付き老人ホームで、のんびりするのはいかがでしょう？温泉で年寄り釣るって、パワハラじゃないの？パワハラって、そういう使い方するのかな？

話を聞いていた桂、なにやら、指を折りながら計算している。

桂

一八七四年生まれって、（クニをしげしげと見て）クニさん、一四七

歳?!

今泉 いいえ、クニさんはもつとずつとお若いです。先月九十七歳になられた

ばかりです。

桂 (顔を引きつらせて) こ、こ、今年は何年ですか?

一同 (桂の慌てように啞然としながら口々に) 今年は昭和四十六年よ?

桂 昭和四十六年……?!?

一同 そうよ。

桂 (まわりを見渡して叫ぶ) こ、こ、どこ?!

昭和四十六年頃を象徴する音楽とともに (暗転)

鳥の声が聞こえていて、朝を思わせる。洋子、桜子、リリーが玄関で靴を履きながら出かける準備をしている。リリー、大きなリュックを背負う。

洋子

クニさんは？

桜子

もう、畑仕事してますよ。今年もナスやキュウリが豊作だって喜んでました。菜々さんが、朝早く畑仕事をするクニさんの姿は絵になるってカメラ持って追いかけてます。朋美さんは草集めに。遠くからやって来たお二人はお疲れなんでしょう、まだお休みみたい。

洋子

それにしても、あのケイって子、「私、五十年先の未来から来ました」なんて、よく言うよね。山から転げ落ちた時、（自分の頭を指差して）そうとう打ったんじゃないの。

桜子

でも私、信じちゃいそう。ケイさんって、何となく未来的ですもの。

洋子

未来的って、何？ その非論理的な発想やめてくれる。敵の放った工作員かもしれないよ。

桜子

工作員って、何のために？

洋子

ここに集まって闘っている我々を、分断させようとしているのかもしれない。結束の崩れた闘争集団って崩壊するの早いから。

リリー

こんなファンタジーみたいな話で、どうやって分断させるのよ。それより、彼女、五十年先の未来から来たって、本当かもしれないな。

洋子

何を根拠に？

リリー

彼女のファッション。ほら、あのやたら短いソックス。見たことないでしょ。それに（土間のスニーカーを持ち上げて）この運動靴。こんな靴底も見ただことないのよ。何かものすごく機能的だと思うのよね。運動靴が進化してるというか……。

桜子

リリーさん、靴屋さんだったんですか？

リリー

あたし、学生の頃、スポーツ用品店でバイトしてたの。

三人で靴をながめていると、朋美が刈り取った野草を抱えて帰って来る。

朋美

ただいまー。あら、これから？

洋子

橋の近くまで土建屋のトラックが近づいて来て、脅しばかりとるばって

ん、ちょっと様子ば見てくるばい。

朋美

ご苦労さま。(桜子に向かつて) 洋子さんって九州出身だっけ？

桜子

いえ、あたしもオーシャンも埼玉だけど。緋牡丹お竜のファンみたいで。このところハマってるみたい。

朋美、納得したようにうなづく。

朋美

(洋子の後ろ姿をみながら) よつ、咲いた緋牡丹背中に背負い、負けはしません矢野竜子。いつてらっしゃーい。

リリー

私は、町まで食料の調達に。朋美さん、何か必要なものない？

朋美

できたらおやつの実を。豆大福とかあるとうれしいかも。

リリー

了解。

洋子

あつ、リリー、(ポケットから財布を出してお金を渡しながら) 私の個人経費でタバコ買って来て。

リリー

ガッテン承知。缶ピースね。

洋子、桜子はマスクに帽子、リリーはそのまま、三人出かけて

いく。朋美が野草の仕分けをしていると、時子、襖を開けて奥から登場。ボストンバックを抱えている。

時子 おはようございます。

朋美 あら、おはようございます。顔洗うなら裏庭の井戸で。

時子 はい、どの家もだいたい同じだったので分かります。

朋美 そうか、この村の人だもんね。台所のテーブルに食料があるから適当にやって。

時子 ありがとう。

時子、ボストンバッグを抱えたまま台所に消える。入れ違いに桂、同じく襖を開けて登場。

朋美 あら、おはよう。どう？ 五十年昔の夜は。よく眠れた？

桂 いえ、眠っているような起きているような、どこかを彷徨っているような。

朋美 そう、タイムスリップとやらも大変ね。お腹は？ 台所に食料あるから。

ここでは、朝ご飯は、それぞれ適当な時間に自分で作って済ますルールなの。

桂 食欲なくて……。みなさんお出かけね。

朋美 洋子さんと桜ちゃんは、敵陣視察に。リリーさんは買い出しに。

桂 近くにスーパーとかあるんですか？

朋美 まさか。以前はこの集落にも、何でも屋みたいなお店が一軒あったんだけど、三カ月前にその一家も立ち退いたらしいわね。最近までは行商の軽トラックが月に何度か村を回っていたけど、それも来ないわね。敵は兵糧攻めのつもりかも。リリーさんが町まで自転車だね。

桂 あのー、つかぬことをお聞きしますが、皆さんの生活費とか、経費なんかはどうしてるの？

朋美 (柱に掛かっている巾着袋を指して) あの中に、皆が親からの仕送りやバイトで稼いだお金を入れておくの。収入の全てというわけじゃないけど、自分で判断してね。それをこの共同生活の食料や消耗品に当てているってわけ。

桂 私、昨夜もお世話になっているんだけど、すみません、財布もなくなったみたいで手元に現金がなくて。もっとも現金があってもここではなん

の価値もないけど。

朋美

気にしなくていいのよ。ない人はなくていいの。出せる人が出せる分を出す。出した金額によって上下も権利も発生しないの。誰がいくら入れたかも、誰も気にしないわ。

桂

そうなんだ。そんな発想ってなんだかい感じね。

朋美

洋子さんが提案したの。プチなんとか共産制とか共同体とか、階級のない真の平等とか何とか、むずかしいこと言ってたけど、みんな納得してるからいいんじゃないの？

桂

階級がないってすごいな。階級がなければパワハラもなくなりそう。

朋美

桂さん、上司や先輩で苦労してるんだ。ところで、昨日、「ス」なんとかいう小さな板みたいなので、電話も出来て手紙も音楽や映画まで送れたり受け取ったり出来るって言ってたわね。

桂

ええ、『スマートフォン』。買い物の支払いなんかも、お財布代わりにそれひとつで。世界中の情報もあつという間よ。

朋美

去年、1970年だけど、大阪万博が開催されたの。そこで、ワイヤレス・テレフォンって電話線のない電話が出品されてるって聞いたとき、ほんとかな？と思ったけど。鉄腕アトムの中で、たしか、そんな電話

桂　だとか、テレビ電話なんかも描かれていたわ。本当になってるんだ。
そうね、予想をはるかに超えているかも。子供から老人まで、国民のほとん

とんどが持つてるから。

朋美　五十年先、確実に昭和は終わってるよね。

桂　ええ、今は令和3年。昭和と令和の間に平成というのがあったのよ。

朋美　へえー、ヘイセイにレイワかあー。レイワってどんな字？

桂　命令の令に平和の和。

朋美　何だか勇ましいというか、固いわね。

桂　そうでもないらしいのよ、確か、万葉集の何かからとったとか。

朋美　ふーん、そうなの。その令和の世界、行ってみたいような怖いような。

まあー、五十年かかったものは五十年かけて付き合わないと、頭も気持ちも、ついていけないかもね。

桂、ポケットを探って、何かを取り出して朋美にひとつ差し出す。

朋美　あら、なーに。飴？

桂　食べてみて。職場の同僚で、やたらお菓子を配りたがる子がいてね、も

らったものなの。ポケットに入ってた。

桂、包み紙から取り出して口に入れる。朋美、珍しそうに包み紙を眺めて、丁寧の中身を取り出して口に入れ咀嚼する。

朋美（食感にびっくりした表情で）うわっ、なんだ、この不思議な食感。ス

イカの味がする。

桂 わたしは子供の頃から食べてたけど、この時代にはなかったお菓子、グミって言うの。

朋美 すごーい、未来のお菓子食べてんだ。美味しい！

桂 でしょう！ 日本のグミは、味も形も色もすごく豊富なのよ。

朋美 五十年先かあー、何もかも変わってるんだろうなー。

桂 ところで、みんな頑張ってるけど、ダム建設って、中止になる可能性はあるの？

朋美 たぶんないわね。いつまで抵抗出来るか。あつ、いけない、こんな弱気なこと言くと洋子さんに叱られそう。この村のダムだけじゃないわ。みんな目の前の高度経済成長とかに振り回されている。五十年後は、

この時代がどんなふうに見えるのかしら。

ごめん、私、あんまり考えたことなかったな。何となくだけど、すごくパワフルな面白そうな時代だって印象かな。遠い昔のような気がしてた。

朋美

あつ、私だって、五十年後はものすごい遠い未来にしか見えない。

桂

五十年って、けっこう長い！

二人笑い合う。そこに、時子、やっぱりボストンバッグをしつかり抱えた状態で台所から出て来る。

桂

おはようございます。

時子

おはようございます。あのー、台所ずいぶん汚れてたので、お掃除しておきました。

朋美

あら、ありがとう。

桂

あつ、私も何か、お掃除とか洗濯とか、労働で対価を払わせて。新参者です、何なりと。

朋美

新参者とか、そういうのナシって言ってるの。でも、トイレとお風呂場

桂
のお掃除お願いしちゃうかな。
はい、よろこんで！

桂、朋美、退場。音楽と照明で時間の経過を表現する。
時子、卓袱台の上に置かれていた雑誌（「anan」）を広げている。洋子と桜子、戻って来る。

時子　あつ、お帰りなさい。

洋子・桜子　ただいまー。

洋子　まったく、あんなショベルカーまで待機させて、強引に実行支配するつもりだね。

桜子　あんなの見たとめげそうになるわ。

洋子　だめだめ、それじゃあ、敵の思うつぽだよ。

桜子　彼らが橋を渡りそうになったらどうする？　川原の石投げて闘う？

今のうちに石ころ集めておく？

洋子　（まじまじと桜子を見て）あんだ、そんな過激な女だったけ？　暇つぶしに来てみただけって言ってなかった？

桜子

そうなんだけど、ここにいますと、ちょっと刺激的で闘争心が目覚めたというか、ワクワクしちゃって。

洋子

似合わないことに首突っ込まないほうがいいんじゃない？ そろそろ帰ったら？

桜子

せっかく面白くなって来たんだし、（拳を突き上げて）私、桜は闘うわ。オーシャン、何か作戦はないの？

洋子

橋の上で座り込みって手もあるけど、とにかくクニさんがこの家を出ない限り、彼らは手を出せない。私たちは静かに抵抗するのみよ！

洋子は「喉乾いたー」と言いながら台所へ消える。桜子、時子の側に来る。

桜子

（時子に）その雑誌、知ってる？

時子

初めて見たわ。（表紙を見ながら）『アンアン』？

桜子

去年創刊されたのよね。ファッションなんかも素敵だし、特集も画期的よね。オーシャンに言わせるとバカみたいだって。でも、この雑誌を小脇に抱えてると軽い女に見えるから、敵の目を誤魔化せるって。

時子　　そうなの？　よく分からないけど……。

桜子　　（笑いながら）わたしもよく分からないけど。オーシャンらしいというか、素直に興味あるって言わないところが可愛いとこね。

桜子は座敷へ消える。台所から洋子の声。

洋子　　うわー、どうしたのこれ。

洋子、戻って来て。

洋子　　台所ずいぶん変わってたわ。もしかして時子さんがやったの？

時子　　ああー、でも気にしないでください。あまりに汚れてたので、お掃除しておきました。お礼なんていいんですよ。

洋子　　お礼を言うつもりはないわ。綺麗とか汚いとかの判断や感性は人によって違うもの。あなたが汚いと感じるものを私も汚いと感じるとはかぎらない。あなたは台所が汚いと思ったから掃除をした。私は台所が汚いと感じないから掃除をしない。例えば、あなたが青いという色を表

現しようとして吐いた言葉が、正確に、つまり、あなたが感じている、あるいは記憶にある青色とまったく同じ青色を相手が認識しているとは限らない。絵画だって、映画だって、小説だって、どんなに豊かな表現力であつても、相手の感性の世界を支配することなどできない。共感などというのは幻想に過ぎない。分かっているながら、共感という得体の知れない怪物にしがみついて、我々はこの闘争を遂行しているのよね。

時子

はあー？ とりあえず前と比べたら少しだけ清潔になったかなと、私の勝手な判断ですから。

洋子

そこ！ 前よりも今の方がまし、問題はそこよ！ 比べることで今の状態を清潔と感ずること自体、絶対的な本質を見ていない。隣の花ちゃんと比べてあなたは、とか、そういう他と比べることで価値を決定するというのはどうかしら？ そういう相対的な価値の捉え方をしているては本質がぶれると思うのよね。ベトナムと比べて日本は平和でいい国だ、とか言つて戦争に目を瞑り胡座をかいてはいけない。自分の立っているその場所で常に闘うべきよ。

時子

はあー？！ 全然分からないけど、分かりました。（洋子の迫力に押さ

れたように）ここで闘うわ。

洋子、駆け寄り、握手の手を差し出す。時子、困惑したまま握手をする。洋子、時子の側の鞆をじつと見る。時子、慌てた様子で鞆を後ろに隠す。

（音楽・暗転）

クニ、桂、洋子、桜子、リリー、朋美、時子が揃って、卓袱台を囲み、豆大福をほおぼり、お茶を飲んでいる。和やかに笑い声など聞こえる。菜々がカメラを回している。

朋美

リリーさん、この豆大福、正解。美味しい！

リリー

でしょ、一個五十円もしたのよ。

菜々

なんだかつまんないわね。これじゃあ、年をとった恩師を囲む同窓会だわ。なんかこう、意見の違いがぶつかり合って、対立したのち、感動的な和解が成立、みたいなドラマチックな展開にしてほしいんだけど。私からインタビュー形式にさせてもらいますね。（洋子にカメラを向けて）まず、洋子さんはどうしてここに来たんですか？

洋子

もちろん、クニさんの、ダム建設反対、立ち退き拒否に賛同したからです。ダム建設が妥当なものかも検証されていません、本当に村の集落一つを水の底に沈めてまで強行する意義があるのか、土木建設業者と自治体との癒着も疑われます。権力者の理不尽なやりたい放題を見逃すわけにはいかない。（だんだん口調が扇動的になる）農民の生命であ

るゝ田畑を守るためゝ、我々は立ち上がったゝ。今、我々はゝ試されている。真の革命的抵抗を持つてゝ必ずやゝ勝利する。この美しい村をゝダムの中に沈めてはならない。農民のゝ自由と権利を死守するのだ！

菜々
なるほど。

菜々、クニにカメラを回す。クニは座ったまま眠っている。

菜々
当のクニさんは眠っています。

リリ
オーシャン、お題目はいろいろ言うけど、行くところないからここに来たというのが本音じゃないの。

洋子
行くところないからってずいぶんじゃない。

リリ
かなり過激な集団で活動してたみたいだし？

洋子
そんなこと誰に聞いたのよ。

リリ
役場の今泉から、ずっと前に。

洋子
ええーっ！　なんで今泉なの？

リリ
さあー、役場って、何でも知ってるね。

朋美 洋子さん、その過激な集団から離れたきっかけは何だったの？

洋子 それ訊かれると……。

リリー 七十年安保闘争が終わったあたりから、行き場のなくなった活動とやら

はどんどん過激になってるし、怖くなったというのが本音じゃないの？

洋子 ゲバ棒やら火炎瓶やらに嫌気がさしていたし、どんどん暴力的になって

いるのが怖かったことも確かだけど……。実は付き合っていた彼氏のことだね。

リリー 女性の性の解放だ、自分の性は自分で支配するべきだ、とかなんとか言

われて、結局、男に振り回されて泣いてる女、活動家とかいう女のなかにけっこういたりするのよね。

洋子 さすがリリー、核心つくなー。でもそういうことじゃないの。彼、二つ

年上で大学の新聞部で知り合って付き合っていてね。私、彼の影響で学生運動に参加するようになったの。流されていくみたいに学生運動に夢中になっていったけど、活動そのものより、彼に夢中になっていったよね。「一握りの人間だけが得をする社会を変える」なんて、彼はいつも真剣でバカみたいに突っ走っていた。彼の演説、かっこよかったのよ。あの日、居酒屋でお酒飲んでね、おかしいのよ、太宰治の『人

間失格』の中の悲劇名詞、喜劇名詞が気に入ってたみたいで手当たり次第、分類して遊ぶの。徳利は悲劇だけどやかんは喜劇だ、コップは喜劇で茶碗は悲劇だ、じゃあ、この冷や奴はどっちだ？なんて、どこに基準があるのかさっぱり分からないけど大笑いして盛り上がった。「じゃあ、明後日、^{あさって}学食のいつもの席、取っとくから」それが最後だったの。

朋美 亡くなったの？ どうして？ まさか暴力事件？

洋子 バイクの事故。それも自分のミスで。

朋美 それでそのグループから遠のいたの？

洋子 うん、風船がパーンて弾けるみたいに力抜けちゃって。

桜子 そうね、あの頃のオーシャン、魂抜けてたものね。

少し引いて聞いていた時子が突然口を挟む。

時子 私、風船が弾けて心が粉々になって消えたみたいになる感じ、よく分かります。

朋美 ええーっ、そうなの？

クニ　　そうかい、時ちゃん、それでここに戻ってきたのかい。

時子　　はい。

桜子　　やだー、クニさん、眠ったままちゃんと聞いてるんだもの。

リリー　二人とも風船が爆発したとして、でも、オーシャンはどうしてここに？

　　ふるさともないし。

洋子　　時間が経って、彼のこと思い出したら、彼のヒリヒリするような真剣さ

　　が頭から離れなくて。どうしてもあんなに真つすぐでいられたんだろう、私、いったい何やってんだろうって、前にも後ろにも行けなくて、ぐずぐずしてた。そんな時、週刊誌の記事で見つけたの。小さな村のクニさんのことを。それで、ここに行こうって。

クニ　　よう来てくれた。

洋子　　クニさん……。

菜々　　リリーさんは？　　どうしてここに？

リリー　あたしの場合は、流れ着いたみたいはこの場所に出会ったのよ。ここを、

　　すべての縛り、つまり社会通念や男社会の弊害から解放された人間本来の自由で自然な生き方に戻るための場所、そこに同じ想いの者たちが集まって、ユートピアみたいな場所になるといいなーって、あれこ

れ構想を練った矢先、横入りみたいにダム建設って、あたしの計画はどうしてくれるのよ。

菜々

すべての縛りからの解放って言っても、結局この社会と関わっていかなくちゃ生きて行けないでしょ。例えば、リリーさん、時々、町のスナックでバイトしてるでしょ。それって、経済的にこの社会と強く関わってるし、どこかで女の部分を利用していると言えなくもない？

リリー

親の脛かじって偉そうに非現実的なこと言ってる学生たちと一緒にしてほしくないね。少なくとも、あたしは経済的に自立してるから。

菜々

つかぬことをお聞きしますが、ヒッピーの方たちって、

リリー

私、ヒッピーじゃないし。

菜々

では、その雰囲気から想像するに、ヒッピーに憧れているとして、世間ではヒッピーの方々はフリーセックスを提唱しているなんてことも聞きますが、リリーさんはどうなんですか？

リリー

こういう短絡的なヤカラ、いるんだよな。

桂

今の菜々さんの発言、女同士でもセクハラですよ。

桜子

セクハラって？

桂

セクシュアル・ハラスメント。何らかの性的言動でもって、相手に不

快感をもたらすこと、職場だけじゃなくてもサークルなんかでも対象になりますから。

菜々
ハラスメントって言われても。そういう人権を侵害するような意図はないわ。

桂
意図のあるなしではなく、言われた本人がどう感じるかが問題なんです。

リリー
そうよ、不快だわ。

菜々
ごめんなさい。質問を変えます。そもそもリリーさんは女性解放運動に何がきっかけで興味をもったのですか？

リリー
そこ、訊く？

菜々
是非とも。

リリー
まあ、何というか、母を見ていて、いわゆる反面教師ね。家は和歌山市内の古い工務店で、父は昔気質の男。母は店の手伝いをしながら家のこともやっていてスーパーウーマンみたいに働いているのに、父の言いなりで父に頼ってばかりだった。それでいて不満だけはぎっしり溜め込んでいた。不満のはけ口は私だったから閉口したけど、それでもそんな母が時々、可哀想でたまらなくなかった。

洋子

それ、うちの親も同じような感じだったな。私たちの母親の世代って損な世代よね。女に高等教育なんて必要ないっていう親に育てられて、女は黙ってついて来ればいいっていう男と結婚して、女の権利を主張する強い娘に責められて。まったく割に合わないわよね。

リリー

女がちゃんものを言って、やりたいことをやるには、まずは経済的に自立しなくては、と思ったわ。大学の授業料も大半は奨学金で賄ったし、アルバイトも何だってやったわよ。

桜子

靴屋さんの店員以外に、どんなことやったの？

リリー

赤ちゃんの子守りでしょ、デパートのマネキン販売に映画のエキストラ、それから美大でデッサンのヌードモデルもやったな。これ、意外に時給安いよ。

桜子

そうなんだ。

桂

人前で裸になることって、抵抗なかったの？

リリー

ないね。人間の自然な姿じゃないの。みんな裸になれば平和になると思うよ。

朋美

やっぱりヒッピー的？

桂

ヒッピーって、裸族のことですか？

リリー（ちょっと嫌な顔をして）まあー、いいけど……。

菜々 リリーさんの強さがよく分かりました。で、皆さんのこれからの闘い方

については、洋子さん、いかがですか？

洋子 私たちは闘いの形を変える時がきたのかもしれない。力や暴力に頼ら

ない、しなやかな闘い方もあると思うのよ。ヘルメットの代わりにリ

ボンをつけて石コロの代わりに花束を握って、柔軟で強くて諦めない、

そんな夢みたいなこともありかなって。

菜々 それは、男では出来ない闘い方ということですか？

洋子 いいえ、男だって、リボンを付けろとは言わないけど、花束握ることは

できるはずよ。歓迎するわ。

桜子 オーシャン、それ、とっても素敵なことだと思うわ。私、オーシャンでかつ

こいいなーって思ってた、でも、どこへ行くつもりなのか、ちょっと
怖いときもあったし。そんな優しい静かな闘いの道もあると思うわ。

桜子、洋子をじっと見つめる。菜々、桜子に近づきカメラを回す。

菜々 いいなー、その感じ。決して差別じゃないですよ、もしかして桜子さん

は洋子さんに特別な感情、つまり恋愛感情持ってます？

リリー

すごくプライベートなこと平気ですけ訊くのね。呆れた。いいじゃないの、何だってどんな形であれ「ラブ&ピース」よ。

桂

つまり、LGBTってことですか？

朋美

LGBTって何？ 五十年後の流行り？

桂

そう。二〇二一年じゃLGBTっていう、ゲイやバイセクシャルの人たちを差別しない、権利を守ろう、多様性を認め合おうという意識が高まってるの。まあ、相変わらず、差別的な言動を発する政治家やおやじはいるけど。

リリー

へえ、五十年経つとそれなりに進歩もしてるのね。

桜子

菜々さんの質問ですけど、違います。そういうんじゃないわ。いえ、オーシャンはとても好きだし、憧れてもいるし、でも恋愛感情かと問われれば、わたくし、やっぱり恋愛の対象は男子ですわ。草刈正雄ちゃんとかジュリーとか、そんなタイプ。

菜々

（桜子にカメラを向けたまま）はあ、まわりになかないタイプですね。高い理想はそれとして、でも、できれば同性愛という劇的な展開がいいわねえ。女ばかりの闘争集団、生活を共にし、闘う中で

芽生えたある愛の形。大丈夫、編集の際、告白的な字幕スーパーで対処するわ。

洋子

ちよつと、菜々さん、あなたドキュメンタリー映画を撮りに来たって言ったよね。事実のみを撮り続けることでしか見えて来ない真の闘いの記録を撮らせてくれて、そう言ったよね。それ捏造じゃないの。

菜々

捏造だなんて、演出って言ってほしいわ。ドキュメンタリー映画であっても、より芸術性の高いものにするには多少の創作は必要よ。

桂

それ、良くないと思うわ。リスク管理ゼロね。捏造してバレた時のリスク高いですよ。

朋美

そうよ。たいていの場合、嘘や隠し事はすぐにバレるものよ。

ボストンバッグを横に置いたまま会話に参加することなく座っていた時子、「嘘や隠し事」に反応してボストンバッグを引き寄せる。

菜々

分かりました。事実のみを記録いたします。

桂

それが正解よ。五十年後では捏造や改ざん、バレて人生狂っていく人多いのよ。もっとも、闇に包まれたままってのも相変わらず存在して

るけど。

桜子　ねえ、ケイさん、五十年の間にどんな大事件が起こるの？　教えて。

菜々　そう、何かヒントになるお言葉を！　フィルムに残っていたら、ケイさんのタイムスリップの証拠になるし。予言のレベルを超えるほどのインパクトのあるやつを！

桂　それは色々あるけど……。

洋子　五十年先の未来から来たとおっしゃるケイさんにお聞きしたいんですけど。今年の、つまり一九七一年三月、福島原発が稼働したわ。政府や東電は原発は絶対安全だって、反対運動無視して強引に始めてしまっただけど、絶対って五十年後も絶対なのよね。

桂　ぜ、絶対って、どういう意味で？

洋子　だから、想定外のことなんて絶対起きてないよね。

桂　そんなこと、追求されても……。 (ひとり言で) 「言っておいた方がいいのかな、いやいや」 未来を知るのはどうでしょう？　自然の摂理に反するとか、ルール違反とか……。

洋子　なるほど、うまく逃げたわね。

朋美　そうよ、未来は知らないから未来なのよ。

リリー
でも、せっかくのチャンスだし、知っておいたら得することいっぱいありそう。

洋子
どうかな？ 私は未来から来たなんて信じられないな。妄想じゃないの？

桜子
でも、ほら、スポーツ用品店員経験者のリリーさんの観察、あれ説得力あったわよ。ねえー、ケイさん、足見せて。

桂、立ち上がってパンツの裾を上げてポーズをとる。

桂
こんな感じ？ 足にはちょっとだけ自信あるんだけど。

桜子
そうじゃないの。足元。靴下見せて。

桂、座って、足を上げて足先に力入れてポーズをとる。派手な柄のスニーカーソックス。

桜子
ほら、みんな、こんな短い靴下見たことある？

一同、桂の足に集中。（顔を近づける）葉々、足を撮影。

洋子

別に珍しくもないと思うけど。私たち高校生の頃、白いソックス丸めて下げて足首見せるのが流行りだったわよ。ねえ、桜。

桜子

オーシャン、それ、たぶんうちの高校だけだと思う。

朋美

埼玉の高校でしょ。

洋子

失礼ねえー。ちよつと寸足らずの靴下一枚で、五十年もの時間の経過を証明できるとは思えないわ。

桜子

それに、リリーさんの話では、（土間の靴を指して）あの運動靴はすごく進化してるんですって。

葉々、靴を撮影。

洋子

運動靴の進化と言われてもどうかかなー。こういう人いるのよね。平安時代から来たとか、宇宙から来たとか。普通さ、五十年も過去に来てしまつたら、もっと慌てない？ 混乱しない？ この方のこの落ち着きよう、変よね。

朋美 何が起きても動じないタイプっているわよ。

クニ (突然起き出して) そうだ、胆の座ったやつはおる。

リリー クニさん、起きてたの？

クニ、また眠る。

洋子 私の推理じゃあ、(芝居じみた感じで) 桂さんとやら、おめえさん何か

やらかして、この山奥に逃げて来たんじゃないかねえかい？ どこまで逃げ
たって犯した罪が消える訳じゃねえぜ。この際、何もかも吐き出して
本当のこと言って、荷物おろして軽くなんな。

朋美 今度は、刑事もの？

時子、逃げるという言葉に緊張した様子で、鞆を抱きかかえる。桂、
うなだれる。

リリー オーシャン、想像力貧困過ぎない？ あたしは、自分の直感を信じるわ。

朋美 そうよ、もっと頭を柔らかくて、信じてみたら。その方が楽しいわよ。

洋子 妄想と想像力は違うわよ。

うなだれていた桂、決心したように立ち上がる。

桂 すみません、そうです、私、逃げてきました。

桜子 ええーっ！

洋子 やっぱり……。

リリー ええーっ！ 未来から来たのは嘘だったの？

朋美 そうなの？ あのコンピューターの話や未来のお菓子は何だったの？

信じたのに……。

菜々 わおー、すごい展開になってきた。

菜々、張り切って動き回りカメラを回す。

桂 いえ、五十年前から来たのは本当です。本当に私、未来からやって来た

んです。それは偶然で望んだ訳じゃなくて、ほんとはすごく慌ててるわ。でも、私、逃げたくて、ずっと逃げたかったから。パワハラ上司にセ

クハラ先輩。とにかく会社から逃げたかったから、ほっとしてるとい
うか、やった！って感じで。

朋美 どんな会社に勤めてたの？

桂 教育関係のわりあい大手の塾で。

桜子 塾の講師？

桂 いえ、広報の事務で。

朋美 そんなに嫌な職場だったの？

桂 実は大変なことやらかしてしまつて。

朋美 何やらかしたのよ？

リリー そのパワハラ上司に耐えられなくなって、ある日、上司の背中をナイフ

でブスツとか？ いや、実は真犯人は別にいて逃げてるとか？

桜子 ええーっ！ それって女版逃亡者じゃない！ 事務職員中本桂は現場か

ら逃げ去った女を捜して、逃げる。髪の色を変え、重労働に耐えながら、

今日をそして明日を生きるために。

朋美 桜ちゃん、真面目に聞いて。

桜子 ごめんなさい。続けて。

桂 そこで、顧客のデータ、メディアにコピーして持ち出しちゃいけない

ことになっていたんだけど、自宅での作業が増えて、つい持ち出して、どこかでなくしたみたいで。

リリー また出た、よく分からないカタカナ語。

菜々 ケイさん、カメラ目線、もらえます？

桂 (カメラは観客にある設定で、観客に向かって) 確かに鞆の内ポケットに入れたはずなのに、どこを探しても見つかりませんでした。頭が真っ白になって、ただ逃げることしか思いつきませんでした。

洋子 顧客のデータってどんなもの？

桂 塾生のあらゆる個人情報。住所、氏名から得意な科目、試験の成績まで。それも、およそ五万人分。

一同 ええーっ、五万人分！

リリー どうやって持ち出したのよ。大学ノートなら何冊分？ いったい何キロ？ いや、何十キロ？

桂 そこが、時代が違うんです。USBメモリーという(手で示して)こんな小さな箱の中に全部のデータが入っているんです。

桜子 マッチ箱ぐらいの大きさの中に？

桂 マッチ箱よりもっと小さいかなー。

一同

ええーっ！

洋子

それで逃げて来たって訳？

桂

たぶん、大騒ぎになります。幹部はテレビカメラの前で頭下げて、マスコミには、あることないこと書かれるだろうし、先輩や同僚の笑ってる顔が目には浮かんで。

朋美

どうして笑うの？

桂

私、きつとみんなに嫌われています。同情もしてくれないと思うから。同僚ともあんまり話もしなかったし、お昼だって、飲み会だって、全部断つて、ちょっと浮いてたし。

リリー

やっぱり浮いてたんじゃない。

朋美

そういう人いるけど、嫌われているというのは被害妄想かもよ。ケイさん、いい人みたいに見えるけど。

桂

ありがとう。いい人なんて言われたの、小学生の時以来かもしれない。とにかく、怖くなって上司にも報告してないし。もうどうしようもなく、死にたくなって。

桜子

自殺しようと思って、山を彷徨っていたの？

桂

そこまでは……。そんな勇気もないし。とにかく、できるだけ遠くの山

奥の誰も知らないところに逃げようと、電車とバス乗り継いで。あとは山の中に迷い込んだみたいになって、気がついたらここに。

リリー

じゃあ、逃げ切ったってわけね。五十年も過去だもんね。

クニ

（突然起き出して）逃げられん。

（間）

桂

やっぱり……。

桜子

逃げても、現実には起ったことは消えないわね。

桂、がつくりした感じで座り込む。

洋子

他にも逃げられないのに逃げてるヤツいるんじゃないの？　ねえ、時子さん？

一同、時子を見る。時子、ますます緊張状態で鞆を抱きしめる。

洋子 その鞆、ずっとそばに置いてるけど、いったい何が入ってるの？

時子 特に、そのー、これといったものは。

洋子 入ってない？ でも、ずいぶん重そうね。

リリー まさか、小さな遺体が入ってるとか？

一同 げえー！

一同、一斉にのけぞる。時子おもむろに立ち上がり、ボストンバッグのチャックを開ける。サスペンシブな効果音（音楽）と照明の変化で、一同、恐怖におののく。

時子、突然、鞆を逆さにして中のものを卓袱台にぶちまける。照明、元の明るさにもどる。銀行の封がされた札束とバラバラの一万円札が転がる。

一同、一斉に顔を卓袱台に近づける。啞然とする。

洋子 どうしたのこれ。

リリー まさか銀行強盗はないよね。

洋子 三年前の三億円強奪事件の犯人の一人とか？

桂 あの有名人三億円強奪事件って、三年前だったんですか。

朋美 あれって仲間に女がいたの？

リリー さあー？（時子に）あなた犯人の仲間なの？

時子 関係ありません！

桜子 時子さん、これっていくらあるんですか？

時子 五千三百二十万円。

朋美 妙に半端ね。

時子 横領可能な金額でした。

リリー 横領したんだ。大胆だなー。それで追われて逃げてきた？

時子 きつと追われていません。このお金は表に出せない裏のお金ですから警察に届けることも出来ないんです。マスコミに知れたら会社の命取りです。

菜々 思いもかけない展開になってきた。ドラマチックが向こうからやって来た。状況的に微妙だけど記録しておく必要ありね。

洋子 時子さん、どんな会社に勤めてたの？

時子 ゼネコンの会社で経理やっていました。

朋美 ふーん、そういう小説みたいなことあるんだ。それで、この大金持って

空港にいたってことは、どこか海外にでも逃げる気だったの？

洋子 女がこういう大胆なことする時って、たいてい男が絡んでるのよね。

リリー 分かった！ 空港で男を待っていたけど、男は臆病風ふかして逃げた？

時子 そのとおりです。よくお分かりなんですね。

リリー (得意げに) まあね。サスペンスドラマの定番よ。

時子 なんでこんなバカみたいなことやってしまったのか、私、一人になったら急に怖くなって。こんな犯罪やってしまっって、どうしたらいいのか……。

リリー そうよねえ、よく分かるわ。じゃあさー、これも何かの縁。時子さんの恐怖を皆で、軽くしてあげようよ。ケイさんも入れて八人で平等に、この方の罪を引き受けましょうよ。

桜子 引き受けるってどうするんですか？

リリー だから、この五千三百二十万円を、八人で山分けするってのはどうかな？

桜子 いえいえ、それはダメです。私たちはクニさんの権利を守るためにここにいるんです。犯罪者集団になってはいけないわ。

リリー ナンセンス！

桜子 ナンセンスで片付けられないわ。

朋美 でも、その相手の人はどうして来なかったの？

時子 彼は、同じ職場の上司だったんですけど、彼が何もかも捨てて、どこか遠くに行って二人で暮らそうって言ったので、信じていました。きっと、決心出来なかったんだと思います。優しい人ですから。

朋美 もしかしてその彼氏って、妻子ありとか？

桂 ええーっ、不倫ですか？ それはダメですよ。不倫はダメです。不倫がバレて人生台無しにしたタレントや政治家がどれだけいるか。世間の厳しい目っていろいろありますけど、不倫は、少なくとも五十年後は超アウトです。

リリー ちょおーアウトって、どんだけアウトなのよ。

朋美 どうして妻子のある人と……。

時子 優しかったんです。その頃私、父の入退院の繰り返しと、疲れ果てた母との暮らしに、私自身ボロボロでした。すごく痩せていた私に、彼が「ちゃんと飯食ってるのか」って言って、残業の帰りにご飯に誘ってくれて。（思い出して笑顔になる）「もっと食え、食え」って。

リリー あるのよねー。分かってはいるけど、石に躓いたみたいに、ぼろっと穴

に落ちてしまうことって。

洋子

その男に横領を持ちかけられたって訳？

時子

いいえ、彼が要求した訳じゃないんです。まとまった資金があれば、どこかで二人でやり直せるって、そんな言葉を聞いたものだから。だから、私が勝手に決心したんです。

桂

そんなところで付度はまずいわよ。

リリー

また、ソントクなんてカタカナ語使っちゃて。

桂

ソントクはカタカナじゃなくて漢字ですけど。

リリー

あら、そうなの？ どちらにしても、自分で決めたのなら、ある意味、自立した女性であることには変わりないわね。

菜々

時子さん、カメラ目線で今のお気持ちを！ 彼に対して言いたいことは？

時子

（観客に向かって）私、来なかった彼を恨んだりしてません。これでよかったかと。どこかでほっとしています。……幸せでした。

桂

でも、やっぱり、不倫はまずいわ。

クニ

（突然起き出して）人の心まではとやかく言えん。が、強盗はダメだ！

リリー

クニさん、強盗じゃなくて横領だそうですよ。

クニ ダメだ！ 横領はダメだ。

時子 はい……。

桜子 その方のこと、すごく好きだったんですね。

時子 私の恋でした。

舞台袖から突然、山高帽子が飛んで来て、時子、受け取って、『恋の季節』をピンキーとキラーズの振り付けで踊りながら歌い出す。
途中から皆がコーラスとダンスで参加する。

（暗転）

時子、来た時と同じ二つの鞆を持って、玄関に立っている。クニや皆が一同で見送っている。

リリー どうしても行くの？ 悲しいな。

朋美 リリーさんは五千万円に未練なんですよ。

リリー だって、誰かがものすごく困る訳でもないし、どうせ悪に利用されるなら、返したりしないで、私たちが生きた使い方した方がいいと思うけどなあ。

時子 リリーさんのお気持ちはよく分かります。

クニ トキちゃん、よう決心した。

時子 はい、ちゃんとけじめつけてやり直します。

洋子 けじめついたらまたここに戻っておいでよ。一人でも多いと助かる。

クニ 身体に気をつけての。待っておるに。

桜子 お元気で。

菜々 おかげでいいシーンが撮れたわ。上映会やるからその時は来てね。

時子

はい、ありがとうございます。皆さんもお元気で氣をつけて闘ってくださいね。さようなら。

リリー

そこまで送って行くわ。

リリー、お金の入った鞆を持つとうとするが、時子はそれを拒んで、リリーと時子、笑い合いながら退場。

洋子

（ぼんやり見送っている桂に）あんたも帰りたいの？ 五十年は簡単に帰れないもんね。

桂

洋子さんは、まだ、信じてないんですよ。

洋子

まあね。私、理論的に納得いかないことは認めない主義なの。

リリー、バタバタと走りながら引き戸を開け戻って来る。

リリー

雨が降ってきたわよ。久しぶりの雨ね。

リリー、『雨にぬれても』（「明日に向かって撃て！」の主題歌）

を歌い出す。つられて洋子、朋美、桜子も歌い出す。

歌っている間に雨音が激しくなる。

そこに今泉がやって来る

今泉

みなさん、何を呑気に歌なんかうたっているんですか？

洋子

あら、珍しい。今日は日曜日でしょ。休日出勤なの？ おたくの村長も

人使い荒いね。

今泉

いえ、今日は私の個人的な行動です。

リリー

どうしたの？

今泉

大きな台風が近づいているみたいです。今のうちに避難したらどうかと思います。小さな崖崩れの報告もあったみたいですし、川の氾濫の恐れもあるかと。

リリー

あの川、そんな度々氾濫してるの？

今泉

いえ、一度も。

リリー

一度も？ どういう根拠？

洋子

まさか、皆を避難させておいてこの家、ショベルカーでグシャ、でもって、嵐のせいにしてこの砦を消してしまおうという腹黒い村長の指示

じゃない？

朋美、リリー、桜子 ひどーい！

今泉 違います。そんな指示受けてません。私の勘というか……。避難に賛同していただけるなら、私の知人が皆さん全員移動出来る車を出してくれることになっています。

洋子 ずいぶん、手回しがいいわね。クニさんの意見は？ この村で百年近く生きてるわけだし。

クニ わしはここにおる。

リリー じゃあ、決まりね。

洋子 避難はしないわ。

今泉 そうですか……。分かりました。では、くれぐれも、雨戸も閉めて万全の対策をお願いします。

洋子 待って、今泉。

洋子、今泉を呼び止める。今泉立ち止まる。

洋子 でも、ありがとう。

桜子、リリー、朋美、菜々、口々に「ありがとう」と言っている。
今泉、照れたように笑ってお辞儀をして去る。桂、落ち着かない
様子でうろうろしている。

桜子

ケイさん、どうしたんですか？

桂

一度も氾濫したことなくても絶対しないというロジックにはならないの
で、やっぱり、ここは今泉さんをお願いして避難するのがいいかなと
思って。

洋子

ロジック？　そういうカタカタ語で誤摩化すのやめて。あなたも帰りたい
のなら帰りなさい。もつとも、五十年後にひとつ飛びなんて芸当出来
ると思えないけど。

クニ

出来る。

朋美、

リリー、桜子、洋子

（一斉にクニに注目して）ええーっ！　出来るの？

菜々

すごい！　もしかしたらSFバージョンになるかも！

桜子

でも、ケイさん、帰りたくないって逃げて来たんでしょ。こんなところ
まで逃げて来られて良かったって。

朋美

そうよ、帰ったら嫌な上司に事情説明しなくちゃならないでしょ。私がいなくなっても、心配する人なんて誰もいないって……。

桂

そうなんです。誰も心配なんてしないし、気にもしないと思っていただけ。（思い出したように）あの、隣の席の千香ちゃん、時々、私のパソコンの前に「チョコレートなんか置いてくれたりするのよね。私」「毒チョコなんかいらない」なんて言ってたんだけど。

リリー

そりゃあ、嫌われるわ。

桂

もしかしたら、千香ちゃんは心配してくれるかも……。

洋子

それで帰りたくなつたんだ。

桂

それでって訳じゃないんだけど。何だろう？ この感じ。過去にスリッパしたと知ったときはラッキーと思って。それなのに、なにかこう（胸のあたりを触りながら）このあたりがザワザワして、大事な忘れ物をしたみたいな……。

桜子

わかりますわ。

リリー

わかるの？

桜子

忘れ物を取りに行きたくなる気持ち……。

桂

アパートの部屋も片付けてなかったとか、ベランダの朝顔に水やってな

いとか、実家には、あつ、長崎なんだけど、四年前から一度も帰っていないし、もつとも、母とは仲が悪くて、いえ、父と母は私が小学生の時に離婚してて、今の母は義母なんですけど、ほとんど会話もないような状態がずっと続いているんだけど。でも、私が突然消えたと知ったら、やっぱり心配するだろうなーって。あのパワハラ上司や意地悪な先輩を思い出すと、二度と会いたくないと思ってたんだけど、どうしてだか、そんな人たちも懐かしいような気になって。いや、ものすごく懐かしくて。出来たら今日中に帰って、月曜日には入社して潔く報告したくなって。

洋子

帰りなさいよ。クニさんが、帰れるって言ってるから帰れるんじゃない。もつとも五十キロメートル先か五十年先かは知らないけど。

桜子

クニさん、元に戻る方法ってあるんですか？

クニ

ある。あの川の滝壺の横、あんたが倒れてたところ、あの横に大きな岩があつて、そこに小さな洞穴がある。昔、何度かおかしなことを言うやつがやって来て、その洞穴から戻って行ったと聞いたことがある。決まって嵐の日に、その穴に消えて行ったと聞いた。

桜子

そうなんですか。

菜々 （喜々として）完璧、猿の惑星の世界になっちゃったよ

リリー 今、まさに嵐だけど、そんな都合よくいくのかなー。

朋美 クニさんが言ってるんだから信じてみたら？ ダメ元でチャレンジする

価値はありよ。早く行っちゃえば。

桂 ええ、そうするわ。

桜子 ケイさん、お別れは寂しいけど。楽しいお話ありがとう。

洋子 あんたの話が嘘でも本当でも、本当だとしてもたかだか五十年でしょ。

私たちまだまだ生きてるわ。また、いつか、どこかで会えるかもね。

桂、玄関に向かっていたが、靴ひもが解けていて、結び直そうと
している。リリーのその足元をじつと見る。

リリー （つくづく感心したように）ケイさん、それ、ほんと見事な運動靴ね。

桂 （結んでいた手を止めて）リリーさんと私の足のサイズ、同じくらいで

すよね。このスニーカーとリリーさんの靴、取り替えませんか？

リリー いいの？ その運動靴、スニーカーっていうんだ。気になったのよ。

でも、未来のものを残して行って大丈夫なの？

桂
(笑いながら) さあー？

二人、靴を取り替えてそれぞれ履いてみる。リリー、うれしそうに飛び跳ねる。

リリー ピッタリだわ。これなら、何十キロでも歩けそう。ありがとう。

桂 私もピッタリ。皆さん、ほんとにお世話になりました。二日間だけでしたけど、何年も一緒に過ごしたような気がします。ありがとうございます。

一同
さようなら。

雨風が強くなっている。桂、傘もささず外に飛び出す。

洋子 大きな台風みたいね。今のうちに雨戸締めて準備しておこうよ。

リリー オーケー。私、雨戸締めてくるね。

朋美と桜子、玄関の引き戸を確かめている。

朋美

ここは雨戸もないし、板か何かで補強しておいた方がいいみたい。

桜子

（土間に置いてある立看を指して）朋美さん、いいものがありますよ。

朋美

本当だ。

朋美と桜子、立看を引き戸まで運び始める。

洋子

（その様子をみていて）やっぱりそれじゃ弱いな〜

朋美

けっこう厚みあるし重いわよ。釘で打ち付けとけば大丈夫よ。

洋子

いや、造形ではなく、内容。「ダム建設反対」じゃ迫力ないわね。ここ「反対」消して「粉碎」に変えよう！

桜子

そこ？ リボンと花束の方向転換はどこにいったのよ。

朋美

それはまたあとで。そんなことより、洋子さん、手伝って。

洋子

へいへい、失礼しました。

洋子、朋美、桜子、立看をドアの引き戸に打ち付ける。リリー戻って来る。

リリー　すべての雨戸オーケーよ。

桜子　嵐の時って、子供の頃から、恐いけどわくわくするわ。

洋子　我が家ではね、農家だったから、台風が来ると外の仕事が出来なくて父も母も家にいるのよね。雨戸を閉めた家の中で家族が集まって、それがうれしかったな。そして、なぜか母がドーナツを作ってくれるの。妹と二人で、嵐の音を聞きながらドーナツが揚がるジュアーって音を聞くのが、楽しかったな。

朋美　ドーナツはないけど、お茶にしようか。

リリー　いいわね。

一同卓袱台のまわりに座る。外の嵐の音、一段と大きくなる。電気が消える。ゴォーという地鳴りのような音。

舞台全体が青い水に包まれる。(照明の効果)

(暗転)

桂と歳をとった今泉が歩いている。桂、リリーと交換した靴を履いている。

桂 やっぱり上から見るとずいぶん深そうですね。

今泉 足元、気をつけてくださいね。

桂 今泉さんは、ずっと役場にお勤めだったんですか？

今泉 はい、隣町との合併で村役場が町役場になったんですけど、定年まで勤めました。そんな訳で、退職してもう十年近く経つんですけど、ダムを見たいという方がいたら、こうしてご案内の役目をさせてもらえます。

桂 ここまでやって来る観光客は多いんですか？

今泉 ええ、家族連れやカップルが時々。中本さんとおっしゃいましたよね、このダムにご興味が？ 何かお仕事ですか？

桂 いえ、仕事は関係ないんです。何かの雑誌でこのダムの写真を見たことがあって、気になっていたんです。気楽な一人旅なので、足を延ば

してみました。

今泉

そうですか。

桂

（スマホで撮影しながら）綺麗ですね。紅葉がダムの水面に映って、あたり一面が燃えてるみたい。

今泉

ええ、新緑の頃もいいのですが、今の時期が一番ですね。町としてはインスタ映えスポットとして観光の名所になればと力を入れているんです。

桂

あれから、五十年経ったんですね。

今泉

（意外な感じで）あの災害のこと、ご存知なんですか？

桂

ええ、雑誌の記事で。

今泉

百歳近いおばちゃんと若い女性の六人が、家ごと洪水で流されてしまった。でも、不思議なことに今でも、あの方たちのご遺体は見つかってないんですよ。私、ちよつと縁がありましたね、よく存じ上げていたんですけど、あの方たちなら、どこかで生きているような、そんな気がします。おかしい話ですけど。

桂

そうですね……。

今泉

中本さん、どこかでお会いしていますかしら。もうこの頃、物忘れがひど

くて。

桂 どこかで会ったことあるみたい、なんて出会い、時々ありますよね。私も懐かしい人に会ったような気がしています。

今泉 そうねえ、（笑いながら）前世とか？

二人、じつと舞台の手前から客席の床（イメージとしてダムの底）を眺める。

桂 あらー、ダムの底に何かいるみたい。何か動いていますよ。

今泉 魚かしら。鯉か鮒か、藻が流れているのかしら。

二人じつとダムの底を見つめたまま。音楽とともに舞台が明るくなって、クニ、洋子、桜子、リリー、朋美、菜々が楽しげに動き回っている姿が舞台奥に浮き上がってくる。ただ、みんなずいぶん、年をとったようだ。

朋美 ああー、どっこいしょ。今日はドングリをこんなに拾ったわ。

洋子 無理するとまた腰痛めるよ。

菜々 ドングリってどんな色に染まるの？

朋美 ベージュとか、ちよっとピンクがかった色も出せるわよ。

菜々 私も今度、草木染め教えてもらおうかな。

朋美 いいわよ。ここは、草木染めの宝庫だもん。

洋子 菜々さん、草木染めの前に、いつになったらドキュメンタリー映画は完成するの？

菜々 今、編集中。そのうち完成するわ。大上映会しなくちゃね。

リリー 楽しみに待ってるわよ。

桜子 クニさん、あれ、クニさん、また座ったまま眠ってる。

菜々 クニさんて、ほんとに変わらないわね。初めて会ったときから同じなんだもの。

桜子 わたしたちって、変わったかしら？

朋美 ずいぶん変わった気がする。

洋子 ねえ、私たち生きてるのかしら、死んでるのかしら。

リリー 生きてるに決まってるわよ。

洋子 そう？

リリー だって生きてなきゃ。こんなに老けてないって。

五人、ケラケラと笑う。 音楽で幕。